

	北波多小学校 学校だより19号	北波多小だより	令和7年9月26日発行 文責 校長 川原 悟
---	--------------------	------------------	---------------------------

研究授業からの学び！

先日は、6年1組の甲斐先生の学級で今年度2回目となる研究授業を実施しました。今回は、音楽科の鑑賞の授業で、音の響きを味わいながら聴き、自分の考えについて根拠をもとに伝え合うことをねらいとした学習内容でした。子供たちも自分の考えや思いがどこからくるのか改めて考え、その根拠と考えを伝え合い、グループでまとめていました。子供たちのいろいろな考え方、感じ方が各グループで出されており、子供たちが安心して授業に臨むことができる環境づくりが活きていたように思います。そして、他の職員も授業改善につながるヒントをもらうこともできました。日々のちょっとした工夫とちょっとした改善の組み合わせを大事に今後も研究を積み重ねていきたいと思っています。



創立150周年記念～学校に残る石碑から～

学校の敷地内には、4つの石碑が残されています。

右の写真は、運動場の遊具側にある「真心」の石碑です。この石碑は、昭和15年（1940年）に皇紀2600年を記念して建立されています。基礎となる下側の部分には、丸い形の拳大の石が600個程埋め込まれていることが表面だけでも分かり、その内部に埋められているであろう石の数を考えると、相当数になることが考えられます。この石は、当時の全教職員と全校児童が近くは徳須恵川、遠くは3km程離れた山田川まで歩いて行き、川底から丸い形をした石を拾い集め、リヤカーやかご等を使って運ばれてきたと記録されていました。まさに全校挙げての取組です。

当時の学校長の校訓の中核には、「真心・奉仕」が位置づけられ、教育に全力を傾注し、そのことを表徴したのが、この石碑に刻まれている「真心」の二文字ということです。

昭和15年の建立から約50年の歳月が経ち、石碑の基礎が空洞化し倒れる危険性が生じたため、平成21年に建設会社4社でつくる「北波多建睦会」の皆さんがボランティアで補修をされています。石碑の裏下側には、その記念に手形も残されています。じっくりと見る機会が無かった方は、ぜひ来校した際に見学されてはいかがでしょうか。

